

おおだて 市議会だより

112号

平成 26 年 5 月 1 日



平成26年 3 月定例会（会期：2月25日～3月17日）

- 主な議案等の審査結果(3月定例会)……………P. 2
- 一般質問……………P. 4
- 秋田杉の器で地酒による乾杯を推進する条例……P. 9
- 私もひ・と・こ・と……………P. 10

表紙写真 平成26年 4 月 7 日 長木小学校入学式（左：6年生のお姉さんと）

主な議案等の審査結果

3 月定例会（会期：2 月25日～3 月17日）

内訳：専決処分の報告 1 件・承認 1 件、条例案53件（うち、議員提案 2 件）、単行案 3 件、
 予算案43件、人事案 4 件、請願 1 件、陳情 5 件、意見書案 3 件、継続審査中の請願 4 件・
 陳情 4 件

計 1 2 2 件

主 な 案 件 ・ 内 容		結 果
○ 平成26年 4 月 1 日から消費税及び地方消費税の税率が引き上げられることから、大館市が管理する施設の利用料金・使用料等について、以下の32施設に関する条例の一部改正が行われました。 比内福祉保健総合センター・田代いきいきふれあいセンター・田代老人福祉センター・こぶしの家・介護予防拠点施設・高齢者生きがいセンター・ふれあいセンター・ペット霊園・田代診療所・衛生処理施設・北地区コミュニティセンター・矢立ハイツ・総合技能センター・二井田市民集会所・湯夢湯夢の里・五色湖緑地公園・五色湖ロッジ・たしろ温泉ユップラ・プルミエ比内・ベニヤマ自然パーク・農林業多目的研修集会施設・農産物集出荷加工施設・農村婦人の家・高齢者若者センター・高齢者生産活動施設・構造改善センター・市営牧場・公設総合地方卸売市場・民舞伝習館・市民文化会館・樹海ドームパーク (31件)		賛成多数により 原案可決 (賛成26 反対 1)
スカイパーキング	(1 件)	原案可決
○ 秋田杉の器で地酒による乾杯を推進する条例（議員提案） 「秋田杉の器で地酒による乾杯」の習慣を広めることにより、地域文化や伝統産業への理解の促進を図るため、市民各位の御協力をお願いするものです。〔P. 9 参照〕		原案可決
○ 大館市議会の議員の定数を定める条例の一部を改正する条例案（議員提案） 今後の市の人口減少、財政状況や地域経済の動向等を勘案し、議員定数を減員する条例案が議員から提案されましたが、賛成少数（4 人）により否決となりました。		否 決
○ 平成25年度大館市一般会計補正予算（第11号） ・ 庁舎整備等基金積立金 3 億 19万1,000円 ・ 財政調整基金積立金の追加 4 億1,300万3,000円 ・ 減債基金積立金 10億 18万5,000円 ・ 用地取得費助成金 7,256万0,000円 ・ 農地・農業用施設小災害復旧支援事業費補助金の追加 4,350万0,000円 ほか		原案可決
○ 平成26年度大館市一般会計予算 総額 322億6,335万4,000円		賛成多数により 原案可決 (賛成26 反対 1)

請願・陳情

3月定例会に提出されたもの

請願	○T P P交渉からの撤退を求めることについて	継続審査
陳情	○最低賃金の改善と中小零細企業支援の拡充について	採 択
	○雇用の安定を求めることについて ○特定秘密保護法の廃止について（2件） ○地方自治体の臨時・非常勤職員の処遇改善について	継続審査

継続審査となっていたもの

請願	○長木公民館全面改築について ○経済雇用対策のための地方財政の強化について	採 択
	○放射性セシウムを含む焼却灰の受け入れ再開への反対について ○T P P交渉に関して	継続審査
陳情	○日本政府に核兵器全面禁止の決断と行動を求めることについて	採 択
	○教育費無償化の前進について ○原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律改正を求めることについて	継続審査
	○違法な臓器生体移植を禁じることについて	不 採 択

－ 意見書の提出 －

- 経済・雇用対策強化のための地方財政の強化を求める意見書
《提出先》内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、経済産業大臣
- 日本政府に「核兵器全面禁止の決断と行動を求める」意見書
《提出先》内閣総理大臣、総務大臣、外務大臣
- 最低賃金の改善と中小零細企業支援の拡充を求める意見書
《提出先》内閣総理大臣、厚生労働大臣

藤原 美佐保議員(平成会)



市長の市民の
豊かさの定義を問う

〔問〕 資本主義、自由競争の中で豊かさを求め、ひたすら走り続けなければならない今日の生活態様であるが、人々との触れ合い、心の安らぐ支えが必要だと思うが。

〔市長〕 人によつてさまざまな考え方や感じ方があるが、行政のかじ取りをする立場で考えれば、産業政策では雇用率や所得、高速交通体系の整備、一方で安全・安心な住環境や医療福祉の充実、子育てや教育などの施策は豊かさの土台となると考へる。所得の増加や施設の充実といった金銭的・物質的な満足だけでは、決して真の豊かさを得たことにはならないと思つてゐる。

企業誘致と農山村の
維持は両立するのか

〔問〕 企業誘致が進む一方で、中山間地の農林業では高齢化が進み弱体化が加速している。国土保全・地域保全を意識し、産業間に人口・人材のバランスがとれた政策と支援を。

〔市長〕 農業従事者の平均年齢は67・2歳で、とりわけ中山間地では過疎と高齢化が進んでいる。国が推進している「大規模化と効率化」、「農畜産物の6次産業化などによる高付加価値化」に取り組んでいく。

飼料用米への対応は
産業育成の立ち位置で

〔問〕 飼料用米の取引単価は30円/kg前後で、手数料や運搬経費を差し引くと半分以上しか残らない。全国的に飼料用米を積極的に与え、牛・豚・鶏肉・鶏卵のブランド化が進んでいる。地元畜産農家に利用しやすくするため、「(仮称)飼料配合センター」を設置し、破碎・調合に取り組む考えはないか。

〔市長〕 飼料配合センターの設置は、輸送などの費用と施設設置費と比較しながら、雇用の創出、産業育成といった側面からも検討を進めたい。

親が育てば
子供は育つ

〔問〕 近年、子供たちの問題行動が社会問題化している。

「親学のすすめ」の考えは。

〔教育長〕 乳幼児期からのテレビ・ゲーム漬けが子供の脳機能に悪影響を与え、軽度発達障害や不登校などを引き起こす大きな要因になっていると言われている中で、父親・母親たる責任を自覚し、「子を育てる教育者としての親を育成する必要性」については、重要な御提言であり、その充実に一層の努力をする。

佐々木 公司議員(いぶき21)



市長の市政運営
について

〔問〕 全国最多、唯一6選中の小畑市長も、6期目の任期が一年余りとなった。残余期間中、最大に力点を置く政策は何か。

〔市長〕 これまでの重点施策から伸び代のある部分に着目し、釈迦内工業団地への産業集積に向けた政策を中心に行う。若者

のひきこもり対策や待機児童の解消による就労への障害除去、超高齢社会に対応した中心街区整備に一定のめどをつけたい。

〔問〕 市長の目指す大館市の将来像・未来像は何か。

〔市長〕 少子高齢化の中で、市民が安心して暮らせ、一人ひとりが自己実現できるような環境を整えるため、持続可能な市としての体制を築くことが重要。産業の維持、雇用の確保、インフラ・医療福祉の整備等が必要である。

秋田DCについて

〔問〕 昨年10月から12月に行われた秋田デスティネーションキャンペーンについて、どのように分析しているか。

〔市長〕 期間中の入込客数は約38万7,000人で、前年同期と比べ約4万5,000人の増加、経済波及効果は約23億1,500万円と推計している。しかし、全国的に大館の知名度は高いとは言えず、観光資源は実力を十分に発揮できていない。今後も、観光PRや情報発信を続け、大館への誘客に向けて、さらに検討を重ねる。

〔問〕 プレDC、本番、アフターDCについてはどうか。

〔市長〕 秋田アフターDCが10月から12月まで、国民文化祭が10月4日から11月3日まで開

催される。昨年のDC本番と同様に臨みたい。

オリンピックを目指す
ようなジュニア世代
の育成強化について

〔問〕 「地元からオリンピック選手を」と小・中学生を中心に発掘に取り組んでいる県もある。本市としても選手育成強化の環境づくりに取り組む考えは。

〔教育長〕 本年度、国体出場選手補助金を16人に交付。32年の東京五輪に向けた選手育成の環境整備では、指導者確保として国・県と連携し、総合型地域スポーツクラブにおけるアスリート派遣事業などの受託を目指す。行政と民間が一体となり、夢を持てる施策を進めたい。

ノロウイルス対策
について

〔問〕 ノロウイルスの予防、発生時の対応、学校給食における対応は。

〔教育長〕 給食調理、配送施設のみならず、納入業者への衛生管理の徹底、児童生徒の手洗い、消毒の徹底、万が一の発生時は速やかな対応で拡大を防ぐ。





ささしま
あいし
笹島 愛子議員(日本共産党)

市長の政治姿勢 について

〔問〕 任期最後の年度に消費税増税。市民生活への影響を最大限回避するための努力をしたか。

〔市長〕 消費税増税については、市民生活へ重大な影響を及ぼす事案の一つとして捉えた。しかし、市の施設の各種使用料・利用料については据え置いたが、本市の厳しい財政状況に鑑み必要最低限の増額とした。

〔問〕 単年度だけの臨時福祉給付金制度の継続を求めるべきだ。

〔市長〕 臨時福祉給付金は一時的な措置であり、消費税増税は生活必需品や電気・水道・ガスなど公共料金の値上げなどにより、継続的に生活へ大きな影響を与えることになるため、支援策の実施について市長会など

を通じ国に要望していく。

国の介護保険制度「大改悪」で、本市の事業はどうなるのか

〔問〕 要支援者の給付打ち切りや特別養護老人ホームへの入所の厳しさ、さらに利用料が1割から2割に引き上げられることで対象者の利用はどうなるのか。

〔市長〕 要支援者については、市が取り組む地域支援事業へ段階的に移行させるつもりだ。特別養護老人ホームについては、施設の絶対数が不足しており、待機者の解消を図るため施設整備を充実させる。また、利用料引き上げの対象者は2割ほどいるが、重度の要介護者には在宅介護慰労金などの活用を促し、在宅介護での負担の軽減を図ってまいりたい。

子育て支援(待機児解消)があくれている

〔問〕 雇用の場に入れているが、子育て支援とは比例していない。待機児をなくす方針を打ち出し、若い人たちを積極的に応援すべきだ。

〔市長〕 母親が短時間勤務の入園希望も多く待機児童が増加しており、その解消が重要な課題だと認識している。

桜のアメシロ 対策等について

〔問〕 市外から来た方々に、桜を初め木々の手入れがよく気持のよい町と思ってもらえるような予算措置を。

〔市長〕 将来的には樹木の一元管理を目指し、できる限りの対応を行う。



おだなぎ
まさゆき
小棚木 政之議員(平成会)

スポーツ課の廃止と、これからのスポーツ振興のあり方について

〔問〕 交流人口増のためにも、今後の体育施設のあり方を考える上でもスポーツ振興を新たな切り口で捉える必要があると考える。

〔市長〕 体育施設の指定管理化移行に伴い課から室へとするが、大館市スポーツ推進計画を策定している。スポーツツーリズムは各団体・各部署と連携し

て推進したい。

市役所本庁舎建てかえと大館市のまちづくりについて

〔問〕 市役所機能や建物の話にとどまらず、まちづくりに影響があると思うがどう考えるか。堀を壊してまで本丸に庁舎を建てるべきではないと思うが。

〔市長〕 災害発生時の司令センターの役割が基本。城趾に対する思いはさまざまであり、拙速な決定は避けるべき。堀の復活ではこれまでにないようなものはつくるべきではないと考える。議会と相談しながら進めたい。

大館駅前再開発と
中心市街地について

〔問〕 旧小坂鉄道の譲渡が決まれば、駅前再開発は現実性を帯びる。駅前の整備は市全体に大きな影響があるが、構想や手法はあるか。中途半端なことはせず、駅舎建てかえとセットで行えないか。

〔市長〕 昨年7月に中心街区再生推進会議を発足、提案がなされた。駐車場、バスターミナル機能などの提案があった。駅舎は市民負担が大きいと考える。

人口減少時代への
処方箋はあるのか

〔問〕 人口減少は今取り組む

べき喫緊の課題であるが、影響をどう考えているか。

〔市長〕 行政制度の共同化などの協議を県と行っている。また、産業の確保に重点で取り組んでいる。

地場産業の振興には新しい切り口が必要ではないか

〔問〕 地域に愛着と責任をもった次世代をふやすためには創業支援などの産業政策を重視すべき。

〔市長〕 企業誘致の効果により人口減少抑制にも寄与していると思う。6次産業化など地場産業支援は経済団体などの意見を伺いながら検討する。

樹海ドームと旧小坂
鉄道の最大限の活用を

〔問〕 騒音の課題は研究機関と組みクリアさせ、大型施設としての位置づけを明確にすべき。小坂鉄道を特定目的鉄道として活用することで経営リスクを減らし樹海ドームを最大限に活用、交流人口増を図れないか。県・未来づくりプログラムの活用がおくれているのではないか。

〔市長〕 樹海ドームの駐車場不足は、今後新たな土地取得ができれば考えたい。鉄道利用の案は十分検討したい。県事業は計画をもって進めている。

千葉 倉男議員(平成会)



比内地鶏鶏ふん処理施設「ヒナイドリームセンター」の異臭について

〔問〕 施設から出るにおいをどうするのか今後の課題となるが「臭いものにふたをする」ではなく、においが出ないような最善の設備と生産マニュアルの策定に努めてもらいたい。市民の声にどのように応えていくのか。

〔市長〕 近隣住民を初め関係者に多大な迷惑をかけたことについて深くおわびする。異臭の原因となった原料の鶏ふんを長期間堆積しないよう、搬入計画を策定して堆肥生産工程を見直し、1日の処理量を5トン以内とする。処理可能量以上の鶏ふんを受け入れず、受け入れ分は当日中に処理する。施設の脱臭装置についても機能強化を図る。

身体障害者(精神)雇用対策について

〔問〕 行政は、障害者の認知度を高めるための法の精神に基づき対処するのは当然であり、障害者雇用に対応する市のこれまでの取り組み、雇率の現状と法施行後の対策は。

〔市長〕 職場の設備や環境等の条件整備などについて、各事業所等に働きかけをするなど小規模事業所も含めて、市全体の障害者雇用が進むよう支援してまいりたい。

大人のひきこもり対策について

〔問〕 ひきこもりとは、18歳以上の働ける年代の人が、原則6カ月以上家庭にとどまり続けている状態と定義されている。大きな社会問題として早急に手を打ち改善しなければいけない。

〔市長〕 大人のひきこもりは社会との接点を持つことが重要であることから、市内事業所や団体と連携を図り、民生委員や保健衛生推進委員など地域で活動する方たちの御協力を得ながら、社会活動や就労活動などを側面から支援してまいりたい。

市民プール・武道館・市民体育館の今後について

〔問〕 市民プール・武道館・市民体育館は老朽化が進んでおり、今後も現状のままで市民の利用に支えていけるのか。

〔市長〕 いずれも築40年以上が経過し改築の時期を迎えている。プールは規模や建設場所などについて検討している。武道館は現在と同等の規模で改築の検討を進めてまいりたい。

佐藤 健一議員(いぶき21)



新たな農業・農村政策について

〔問〕 新政策をもとに今後の大館市農業の行方は。
〔市長〕 4月設立の農地中間管理機構と連携しながら、市内16地区を細分化した上で地域の

中心となる農業経営体への農地集約を進め、大規模経営体の育成を図る。また、1月に実施した全農家対象アンケートの結果を分析・検討し、今後のTTP交渉の内容や国の農業制度の変更も見据え、農家の不安を解消し農業・農村・農家を守るための新たな施策に反映させたい。

〔問〕 農地利用の集積・集約化は不可欠だが、受け手の担い手・働き手の確保をどうするか。

〔市長〕 農業後継者育成事業で引き続き後継者育成に取り組みとともに、青年就農給付金を活用した新規就農者確保や税制面で有利な農業法人化を進め、国の経営所得安定対策などを活用したい。

〔問〕 飼料用米の需給対策は万全か。助成の見通しは。

〔市長〕 25年度飼料用米の作付は142ヘクタール、出荷数量は約750トンとなっており、26年度に増加が見込まれる減反面積に相当する120ヘクタールの作付拡大を図り、市内の養豚・養鶏企業等の飼料として活用予定である。国の助成は、生産調整廃止までの4年間は継続されると見込んでおり、国の動向も見据えながら市の助成も継続し、場合によっては強化も視野に入れて農業所得向上を図りたい。

集中豪雨・台風による農地・農業用施設被害の復旧について

〔問〕 用水路・農道の関係で26年の作付が困難なところがあると聞くが、その対応は。

〔市長〕 災害復旧工事72件のうち、25年度52件、26年度20件の予定で2月から随時発注し、幹線用水路や農道など受益者が多数と見込まれる施設の復旧を優先している。工事完成が間に合わない場合でも、仮復旧により作付できる状態にする計画である。また、小規模災害については、いまだ7割で工事が完了である。隣接河川の復旧工事や工事車両通行道路の復旧おくれで、復旧できない水田や土砂排出が必要な水田など作付を諦めるところも相当数予想される。作付できない水田は、生産調整用として管理していただきたい。

〔問〕 復旧を諦めて農地を放棄する人がいると聞くが、その箇所と面積は。
〔市長〕 工事費負担などから復旧を断念した箇所は把握しているだけで365カ所、約31ヘクタールであり、耕作放棄地にならないよう日本型直接支払制度の活用など地域内の農業者が共同で農地を守る活動に取り組めるよう制度内容の周知を図りたい。



とがし たかし
富樫 孝議員(新生クラブ)

8・9豪雨災害の

復旧について

〔問〕 激甚災害の指定を受けたが、5%の負担をもつと軽減できないか。

〔市長〕 災害復旧には、工事費のほかに諸費用が工事費の10%以上かかるため、経費の一部を受益者の負担としてお願いしている。大規模災害では、農家の負担が多くなるので軽減について検討したい。

〔問〕 田植えまでに本当に復旧できるのか。

〔市長〕 作付ができない水田が相当数あると予想する。補償制度がないので、生産調整用として管理していただきたい。

〔問〕 米代川と引欠川の合流付近の堤防のかさ上げはできないのか。

〔市長〕 国や県に河川整備を要望した。この要望を受け、合流部の河道掘削や樹木伐採を実施している。

施している。護岸堤防など、引き続き国や県に要望していく。

都市計画税について

〔問〕 二重に課税されているのでは。不公平税ではないのか。

〔市長〕 税負担に不公平感を持っている人もいるが、自主財源確保のための重要な財源である。税を納めている地域での均衡ある都市基盤整備が必要であると考え、生活環境を整備し、市民の快適な暮らしに努めたい。

ふるさと納税について

〔問〕 リピーターとして個別の注文につながるよう常に特産物の開発が必要ではないか。

〔市長〕 件数・金額とも更新中であり、寄附者から好評である。リピーターの確保のため、特産品のリニューアルを予定している。

〔問〕 奨学生にアピールしてふるさと納税に協力を。

〔市長〕 納税者数が急増しているが、大館にゆかりのない人がほとんどなので大館出身者の納税をふやしたい。また、人口減少社会であることから、将来地元に着させるか、地元に戻ってきてもらうかが重要である。ふるさと納税を通して奨学生のみならず、県内外の大館出身者に愛着心を持ってもらえるようアピールしていきたい。



あかし ひろあす
明石 宏康議員(いづき21)

長木川以南の 高速バス停留所の 新設について

〔問〕 早朝はタクシーで御成町のバス停まで行かなくてはならず、大型店開店前はトイレもなく大変不便。バス路線の変更は容易ではないが、バス会社と粘り強く交渉を行い、早期に長木川以南地区への停留所新設を強く要望する。

〔市長〕 商業者の厚意により「無料駐車場が広くなり便利になった」との評価があった一方、議員御指摘のとおり「不便になった。停留所を新設してほしい」との要望が、バス事業者や市に寄せられている。繁忙期には1便当たり10数台もの車両が断続的に停車することや、荷物の積み降ろし時の安全性の確保などを勘案すれば、早期のバス停新設は困難な状況だ。臨時バス停の設置などあらゆる可能性

を模索し、新たな運行ルートの実証走行試験を行い検証を進める。

旧正札竹村本館棟の 解体後の 利活用について

〔問〕 「大館市中心街区再生推進会議」の報告書は秀逸だが、民間の提言と突き合わせを行ったり、意見交換を行うことは考えているか。

〔市長〕 議会の提言を踏まえ年度内に最終提案を策定し、プロジェクトチームを設置する。解体工事費は7割近い補助が見込める過疎債を活用した基金積み立てを計画している。有識者や地域団体と意見交換の上、早期の事業着手に努める。

〔問〕 リノベーション(刷新)案を拒絶することよりリバース(再生)案と融合できないか。

〔市長〕 スケルトン化による再利用、高齢者福祉施設などが民間から提案されている。民間投資の誘発を第一に、事業化していきたい。

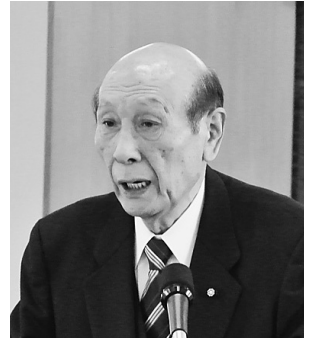


旧正札竹村 立体駐車場



旧正札竹村 本館棟

高橋 まつじ
松治議員(社会民主党)



昨年の豪雨・台風 災害対策は万全か

〔問〕 災害の状況を瞬時に把握するため、災害対策本部に報告させるべきだと思うが。

〔市長〕 昨年の豪雨災害では情報把握が円滑に行えず、対応にも不備があった。その反省を踏まえ、災害対策本部に報告させることとしている。

〔問〕 駅前周辺に大量の雨水が集まった原因の検証は。

〔市長〕 想定外の雨量で既存の排水路や道路側溝の排水能力を超えたことが原因。今後、側溝の改良や都市下水路の整備を実施する。

〔問〕 沼館町内の被害は想像を絶するものだった。早急に対策を行うべきと考えるがどうか。

〔市長〕 今回の被害の要因は、下内川の堤防が決壊したことで御成町方面から大量の雨水が流入したことが原因であり、強固な護岸堤防の築堤を国・県に對

して要望していく。

長木ダムの代替事業は どうなったか

〔問〕 県に強く要求すべきだ。

〔市長〕 今回の災害を振り返るとダム建設の必要性は非常に高く、中止となったのは大変に残念に思っている。治水面から考えても重要な課題である。県へ強力に要望していく。

今後の農業施策は

〔問〕 国が農業政策の大転換を示したが、市の具体策は。

〔市長〕 政府は昨年11月、米政策の大転換方針を発表した。今後は国の動向を見据え、持続可能な「力強い農業」「行き残れる農業」の確立に向け、関係機関と協議しながら対応したいと考えている。

樹海ドームの 駐車場整備を急げ

〔問〕 今後、さらに利用者の増加が見込まれる。早急に整備する必要があると思うが。

〔市長〕 まだ駐車場が不足していると認識している。今後、新たな用地の確保に向け、ドーム周辺の用地の状況把握を行い、適地を探したい。

いじめ・虐待の 撲滅対策は万全か

〔問〕 当市では、いじめ・虐待などの対策にどのように取り組んでいるのか。

〔教育長〕 いじめ防止対策推進法・児童虐待防止法により、子供たちの安全を守る手だてを最優先に考え、対応している。

学校統合事業の 対応は十分か

〔問〕 学校統合問題はこれからも発生すると思うが、統合に向けての対応策を問う。

〔教育長〕 今後も続く少子化を鑑みれば、さらに統合や学区改編も避けられない状況である。これからは基本理念をもつて対応していく。

佐藤 さとう
芳忠議員(無所属)



24時間対応の訪問介護 看護と夜間訪問介護の 実施について

〔問〕 国は24年度から「24時間対応の定期巡回・随時対応型

の訪問介護看護サービス」を新設しました。

このサービスが実施されれば、利用者は日中も夜間も24時間、訪問介護と訪問看護のサービスを受けることができるようになります。また、家庭へは定期的な訪問だけではなく利用者が必要な時いつでも、電話一本でサービスを受けることができるようになるものです。

当市は、この「24時間定期巡回・随時対応型サービス」に対応すべく、条例を制定し25年4月1日から施行しています。

25年12月末現在、当市の介護認定者は5,521人で、このうち969人が特別養護老人ホーム等に入所しており、526人の方が在宅で訪問介護や訪問看護などの居宅介護サービスを受けています。しかし、26年の通常国会で法案が可決されれば、27年4月1日からは施設入所が介護度3以上となり、在宅での介護が増えることが予想されることから、24時間対応型の訪問介護サービスの必要性が高まると考えます。

2年前、24年3月に私がこの件について質問した時、市長は『介護が必要な状態になっても住み慣れた地域や家庭で、安心して生活ができるよう支援の充実を図る。このサービスは、在宅で介護を受けている高齢者や

その家族が、安心して生活を送る上で重要な役割を担うサービスで、利用者のニーズの把握、また、事業者の人材確保など、現時点では課題もあるが、市としては、これらの課題を解消するとともに、参入する事業者の育成を図りながら、第5期介護保険事業計画の中でこのサービスが御利用いただけるよう取り組みでいきたい』と、非常に前向きな答弁をいただきました。

24時間対応の訪問介護看護と夜間訪問介護の実施に向けて、市は早急に夜間訪問等のニーズや事業者の参入要件などの調査をする必要があると考えます。

このサービスの実施についての今後の計画をお伺いします。

〔市長〕 市も高齢者が安心して生活するために重要なサービスであると認識しており、介護職の人材確保と事業者の育成を図ることが急務であると考えております。27年度から始まる第6期介護保険事業計画の策定にあたり、24時間対応の定期巡回随時対応サービス利用の需要を把握するため介護者のニーズ調査を実施しているところです。今後、分析結果などの情報を介護保険事業者に提供した上で、先進地を十分研究し、本サービス事業に取り組める環境づくりに努めたいと考えております。

たなか こうたろう
田中 耕太郎議員(いぶき21)



危機管理課の創設

〔問〕 さまざまな自然災害が頻発する中、本市として対処すべき危機も多様であり、それに即応できる危機管理体制を整えておかねばならない。日常生活を脅かす危機に対し、強力な危機管理能力がある組織とするため「危機管理室」から一歩踏み出し「危機管理課」としてはどうか。

〔市長〕 地域防災計画の見直しなどに加え、空き家対策など新たな行政課題への対応も求められているため、危機管理部門を独立させることが必要であると判断した。「室」という名称の変更も検討してまいりたい。

危機管理部署の適正な人員配置等

〔問〕 災害時、市長指揮のもと全職員が事の収束に当たらないければならない。危機管理担当部局での職務を職員に広く経験

させることが重要であり、経験職員を庁内にバランスよく配置することが全庁的な危機管理対応能力向上につながると考えるが。

〔市長〕 危機管理経験は重要であり、消防との人事交流も10年以上続けている。どの部署にあっても災害に対応できるように訓練を重視しながら危機管理を経験する職員をふやしたい。

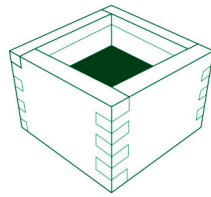
防災(ハード面)から減災(ソフト面)へ

〔問〕 防災は災害に対し被害を出さない取り組みであり、被災は事前の対応を重視し、被害の発生を想定した上で少しでも被害の軽減を図るようにすることである。生活弱者である高齢者や子供の目線での対策を考えなければならぬ。災害を想定し、自宅・学校などからの避難ルートをシミュレートした減災マップこそ必要だと思う。ハザードマップと減災マップを足して2で割ったようなものができればよいと思うが。

〔市長〕 災害時、自分の命を自分で守る自助の精神が原則であるが、行政の支援である公助が必要であることは言うまでもない。東日本大震災を顧みると、完全な防災は困難であることが露呈した。人命を守ることを最優先に被害を最小限にとどめる

『秋田杉の器で地酒による乾杯を推進する条例』を可決しました。

秋田杉の器で地酒による乾杯の習慣を広めることにより、地域文化や伝統産業への理解の促進を図ることを目的とし、議員により提案されました。条例は次の4条により構成されています。なお、この条例は協力をお願いするものであり、罰則等はありません。



(目的)

第1条 この条例の促進に必要な例は秋田杉の器を用い、古くから親しまれている地酒に秋田杉の工芸品及び地酒の普及を図り、もって地域文化及び伝統産業への理解の促進に寄与することを目的とする。

(本市の役割)

第2条 本市は、秋田杉の器に注いだ地酒による主体的に取り組むものとする。

(事業者の協力)

第3条 秋田杉の工芸品又は地酒に関する事業を行う者及び酒類を提供する飲食店営業を行う者は、秋田杉の器に注いだ地酒に関する取組に協力するよう努めるものとする。

(市民の協力)

第4条 市民は、本市及び事業者が行う秋田杉の器に注いだ地酒による乾杯とその普及の促進に力するよう努めるものとする。

減災の対策を講ずることは必要不可欠である。減災マップの作成については、ハザードマップに、減災につながる行動や情報を組み込むことができないか検討する。市民の皆様には、地域全体における防災訓練や避難訓練の実施、避難場所の確認などを呼びかけてまいりたい。地域防災計画見直しに当たっての留意点として「減災の視点を取り入れること」を盛り込んだ次第である。

私もひとこと 第20回

このコーナーではみなさんからの「なまの声」を募集しています。お気軽にご投稿下さい。

主婦

いちのせき

かずこ

和子さん (二井田小坪川原)



投稿の機会をいただきましてありがとうございます。

子育てにかかわるようになり「親子リズム」を知り、新日本婦人の会に出会うことができました。

新婦人しんぶんでは、憲法が変わると子供や孫が戦争に行かされる国になるなど、親として知らなければいけないことを教えてくれます。

予防接種の運動をしてくださった新婦人の方々のおかげで肺炎球菌・ヒブワクチン接種を無料で受けられるので本当に感謝しています。

親になり、たくさんの人に教えら

れ、守られているのを実感しました。

市立病院小児科の先生には「母親教室」でチャイルドシートに乗せてもエアバックの衝撃で乳幼児は障害が残る場合があると、助手席の危険性を教えていただきました。

親としていろいろな知識がふえたと育児のストレスが減ると本に書いていましたが、そうだと思います。

何かあってから「私に知識があれば…」と後悔している親は苦しいと思います。

子育てにかかわっている方、教育にかかわっている方々の講習・講演会はとても納得させられます。そして思うのは、親たちは子を愛し、幸せを願い、悩み、子育てを頑張っているということです。

虐待の報道がありますが、家の中(家族)の体罰を法で罰せられる国がふえてきている中、日本はおくれているそうです。言ってもわからない

い子は叩くという考えのしつけが幼児虐待・介護虐待の要因の一つで、一部の性格の悪い人だからしているのではないそうです。

子を育てる環境が大切です。環境がよいとストレスはたまりません。

曜日を問わず、午前から夕方まで乳幼児が無料で遊べる室内施設が、市の中心地近くにほしいと言うママは多いです。パパもママもおじいちゃんもおばあちゃんも気軽に寄れて、子供たちは体と頭を使い遊べて、友達とかかわり心が満たされる、軽く飲食できる広い場所があったら最高です。

被災地では千年後の命を守るプロジェクトが進められています。「釜石の奇跡」などの教訓はこの秋田でも語り継いでいけたらと思います。秋田は百年後、人がいないと言われているですが、郷土を愛する子をふやし、命を未来へつなげていきたいですね。

市議会を傍聴してみませんか

定例会と臨時会の本会議はどなたでも傍聴できます。

傍聴される場合は、市役所東側(裁判所側)3階の議場入口で受付簿に住所・氏名等をご記入のうえ、係員の指示に従って議場へお入りください。

なお、団体での傍聴をご希望の場合は、傍聴席の数に限りがありますので、あらかじめ議会事務局にご連絡ください。

☎ 43-7108 (直通)

編集後記

今年も卒業の季節がやって来た。小中高の卒業式に招待されるが、毎年感動する卒業式がある。大館高校の卒業式である。答辞が全日制、定時制の二人によって読まれ、特に定時制の卒業生代表の言葉が胸に響いてくる。自分の言葉で感謝の気持ちを素直に訴えるため「卒業、本当におめでとう」と心から祝福したい気持ちになる。

新年度に入ります。さまざまな課題が山積する中、いつどこで何が起こるか解らない災害対策に行政として普段から、きめ細かに配慮する必要がある。危機管理課に注目したい。

(武田 晋 記)